



あじけん通信 vol.5

2008年 6月発行
発行所：TBC国際外語学院
発行人：水沼 正芳

今年も梅雨を迎え、蒸し暑くジメジメした日々が続いていますね。朝起きた時に雨音が聞こえると、とても憂鬱な気分になるという方も少なくないのではないのでしょうか？

さて、そんな憂鬱な時期ですが、毎年個人的に楽しみにしている[あじさい]が、ここアジア研修センターの庭でも咲きました！雨が続き、やるせない気分になりがちな時期ではありますが、私共の校舎では、いつも元気に日本語の授業が行われています。今月は、とある出来事をきっかけに私達が取り組み始めた小さな事柄についての記事をお送りしたいと思います。今回の件に限らず、慌しく過ぎていく日々の暮らしの中で、ふと [気づいた事] や [感じた事] について、出来る範囲で取り組んで行きたい！そんな思いが私達にはあるんです。

さあ、みんなで手を伸ばそう！ ~ 中国 四川省大震災 ~



弊学院も職員や
研修生の皆さん
のご好意により
¥42,438
集まりました。

先日、中国の四川省を大規模な地震が襲い、多くの方が被災され、今も尚苦しい生活を強いられています。連日、テレビで放送される惨状を間の当たりにし、様々な思いが胸に去来しました。

ここ、アジア研修センターには、出身は様々ですが、多くの中国人研修生の皆さんがやって来ます。そして先日、四川省出身の研修生5名が無事に来日し、この施設にやって来ました。話を聞いてみると、ご両親が未だにテントでの生活を余儀なくされていたり、「小さい子供達や多くの人々が亡くなり、今でも涙が出そうになる時がある。」「日本に来れた事はもちろん嬉しいけれども、家族や故郷の事が心配で、そればかり喜んでられないというのが、正直な気持ちです。」という震災のショックがいかに大きいものだったかという事を伺わせる言葉が返って来ました。それと同時に、「日本の皆さんは震災の翌日から様々な支援を始めてくれたり、募金を募ってくれたり、心から感謝をしています。日本に来てからも皆さんから暖かい言葉をかけてもらえたり、何かと気にかけて接してくれる事が本当にありがたいです。」という[日本人] に対しての印象も話してくれました。

様々な国や地域から、研修生の皆さんはそれぞれの目的や思いを胸に、日本へやって来ます。その純粋な思いというのは、皆等しい気持ちなのでしょうけれども、今回のインタビューで、彼女たちの思いの強さを改めて感じました。皆さん1人1人に、今の気持ちをコメントしてもらい、許可を得た上で掲載させて頂きます。ご覧下さい。



谷山清さん

日本で二所懸命に仕事をして、お金を貯めたいと思っています。帰国後は、国に残して来た両親や、現在8歳になる娘に3年という長い間寂しい思いをさせてしまうので、その分まで良い教育や暮らしをさせてあげたいと思っています。



劉明華さん

私には、他のみんなのようにうまくは言えませんが、大変な状況の中で育っていく、私の子供に不自由が無い様に、そしてより良い教育を受けさせてあげたいという思いが強いです。子供のためを思えば、これから先起こる困難も乗り越えていけると信じて、頑張っています。



唐雪梅さん

とても大変な時期に国を離れました。故郷のみんなも復興に向けて努力をしているので、私も負けずに、今自分が居る環境の中で、精一杯の努力をしていきたいです。



薛梅さん

まずは目の前の研修や、日本語の勉強をしっかりと頑張っていきたいです。そして、自分の未来を自分で限定する事無く、この3年間の中で、先々の自分の可能性や方向性を見出していけたらと考えています。



沈南春さん

これから、私は日本語検定1級合格を目標に、継続して日本語の勉強をしていきたいと考えています。帰国後は通訳を目指し、日中間の架け橋となり、今まで以上の友好関係を築いていく為の力になりたいです。でも、何よりも先ずは両親に恩返しをしたいと思っています。



日本の皆さん
多くのご支援
ありがとうございました！

今回の企画を考えた時点で、不謹慎ではないか？彼女達に嫌な思いをさせないだろうか？という懸念がありました。しかし、彼女達は、日本が中国に対して行った物的・人的支援の対応の早さについて感謝の言葉を聞かせてくれました。そして何よりも彼女達の前向きな考え・ひたむきさに胸を打たれました。彼女達を含め、研修生の皆さんの日本での生活が上手く行く様、どのような協力ができるかという事を改めて実感させられた・・・。そんな取材になりました。